

**平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業）  
分担研究報告書**

**外国人専門家招聘による～日本の施設、里親家庭の治療的支援の研究 2（平成 25 年度）～**

**研究分担者（代表者） 開原 久代 東京成徳大学子ども学部  
研究協力者 春日明子 平田 修三 兼井京子 松平千佳**

**研究要旨**

昨年に続き、施設運営、施設ケア、里親養育の実務経験と国際的な施設ケアのコンサルタントの実績をもつ Patrick Tomlinson 氏を招聘し、昨年度の活動をさらに深める形で、講演、ワークショップ、座談会、対談、シンポジウムを行い、施設職員と里親との交流をはかり、困難事例を養育する里親、施設職員への日本独自の支援システムを検討した。来日 2 年目となり里親、施設職員との討議を深め、また柏女霊峰氏との対談などをとおして、子どもの視点でケアのあり方を考えることの大切さと、制度論ではなく、エビデンスを重視する視点の必要性が強調された。

また、現代はどここの国も社会的養護を受ける子どもは虐待とネグレクトによるトラウマをかかえた困難事例が増えていること、そのため里親も施設職員もその養育困難に疲弊していることが報告された。特に、里親養育が 8 割を占める英国では、里親への過重な規制が多くなり里親志願者が減るといった問題がでており、治療的施設（グループホーム）の必要性が高まっているという状況も報告された。講演等ではトラウマを体験した子どもへの治療的ケアの実践と、ケア担当者への支援体制、スーパーバイズ、研修の有り方、治療的グループホームの職員配置モデル、里親のネットワークなどが討議され、日本の社会的養護の改革への示唆を得ることが出来た。また、交流の機会があった里親代表者のレベルの高さ、施設職員の誠実な勤務の実態に触れ、あくまで日本の文化と実践にふまえた支援モデルを作成することを強調し、最近日本に参入している外国企業による里親支援モデルの導入には警告を発している。

Tomlinson 氏の著書「治療的施設ケア」は、開原らの監訳により「虐待を受けた子どもの愛着とトラウマの治療的ケア～施設養護・家庭養護の包括的支援実践モデル」として、2013 年 12 月福村出版から出版した。

**A. 研究目的**

日本では、昨今、虐待による重いトラウマをかかえた社会的養護児童が増加し、その養育の困難に里親、施設職員が苦慮していることから、昨年に続き、英国で困難事例の施設養育、里親支援の実績のある元コッツワルド・コミュニティや SACCS 治療センターの施設長を務め、現在、施設ケア・コンサルタントの Patrick Tomlinson 氏（T 氏）を招聘し、施設職員、里親との交流を更に深め、国際的視点で日本の課題を討議することにより、日本で必要な、困難事例の養育者への支援モデルを構築することをめざした。

**B. 研究方法**

T 氏を中心に里親、施設職員、専門家と日本の現状を協議する機会を作るために以下の手順で準備と活動を行った。

T 氏の来日日程、2013 年 10 月 22 日成田着、11 月 1 日成田発帰国にあわせて、下記の活動スケジュールを作成し、6 月よりメール発信により T 氏と趣旨内容の確認を行った。関連する資料も事前に添付メールで送られてきたので、研究分担者開原が翻訳し、講演の際レジュメとして配布している。

講演会等の開催には、本プロジェクト研究の研究協力者と研究分担者を含む施設関係者、里親代表者、専門家から多大な協力を得ている。

特に、調布学園での活動には研究協力者春日氏に、里親代表者との懇談会には研究協力者青葉氏に、早稲田大学里親研究会と共催のシンポジウムでは、研究協力者平田修三氏に、柏女先生との対談では、研究協力者菊池氏に協力を依頼し、里親支援専門相談員の研修会は研究分担者平田美智子氏の協力を得ている。また、東京都児童相談センター治療指導課研修会では、研究代表者開原の旧職場であったため関係者から多大な協力を得ている。

通訳については、昨年と同じ吉香株式会社の辻直美氏に依頼し、T氏の言葉を見事な日本語で伝え、また里親、施設職員との討議に際しては、日本の発言者の言葉を的確にT氏に伝えることが出来たため、充実した意見交換が可能となっている。また、通訳不在の活動には、英語の堪能な里親、施設職員の協力を得ている。

以下の講演等の活動については、すべてレコーダーによる記録をとっている。

T氏招聘による活動を以下に示す。

### 10月23日~31日

#### 招聘者T氏による講演と討論活動

1. 10月23日(水)9:30~19:00 施設職員への講演と職員、養護児童との交流活動  
児童養護施設 調布学園にて
2. 10月24日(木) 松本市の旧教育施設の史跡訪問。夜、専門里親 吉田菜穂子氏と打ち合わせ
3. 10月25日(金)9:30~17:00 講演会と里親代表者10人との懇談会「家庭養育を守っていくか、仕事としての要素を加えていくか」  
東京大学 伊藤国際学術研究センター小会議室
4. 10月26日(土)13:00~16:30  
早稲田大学里親研究会と共催によるシンポジウム  
森 和子(オーストラリアLighthouse 財団の年長児の治療的ファミリーホーム)  
吉田 菜穂子(吉田ファミリーホームの実践)  
コメントと関連講演 Patrick Tomlinson 氏  
早稲田大学(新宿区)22号館510教室
5. 10月27日(日) 鎌倉の寺院、神社訪問、墓地、結婚式、七五三見学、日本文化視察
6. 10月28日(月)13:00~17:00 柏女霊峰先生との対談 「日本の児童福祉の現状と困難事例対象の治療的支援センターのモデル構想について」  
東京大学 伊藤国際学術研究センター 小会議室
7. 10月29日(火) 徳永祥子氏の案内で武蔵野学院

訪問。相沢仁施設長と懇談

8. 10月30日(水)9:30~17:00 平田班と共催の講演会と全国の里親支援専門相談員の交流会  
10:00~12:00 Tomlinson 氏の講演  
「里親支援と治療的ケア」  
13:00~14:30 藤野興一 氏講演  
「里親支援機関・専門相談員のネットワーク  
鳥取こども学園の取組」  
14:30~16:30 里親支援機関・専門相談員のグループ討議と交流  
16:30~17:00 Tomlinson 氏のコメント  
会場：東京大学 伊藤国際学術研究センター中教室
9. 10月31日(木)9:30~15:00  
東京都児童相談センター特別臨床セミナー講演会  
9:30~12:30 治療的ケアについての Tomlinson 氏講演  
12:30~13:00 宿泊治療部門(ばお)の見学  
13:00~14:30 治療指導課スタッフとの座談会  
東京都児童相談センター新庁舎(新宿区)

### C. 研究結果

レコーダーに記録された全活動記録については、研究協力者菊池氏らの協力を得て、分担研究者開原が凡ての録音記録をT氏の言葉の確認をしながら編集をおこなった。座談会の発言者、講演会の質問者については匿名にしているが、一部の代表的関係者や本プロジェクト研究者は実名記載をしている。  
資料として添付している活動記録は以下となる。

- 調布学園講演会記録「トラウマを受けた子どもとどうかわるか」  
調布学園職員との座談会記録「職員が長く勤務するには」  
里親代表者10人との座談会記録「家庭養育を守っていくか、仕事としての要素を加えていくか」  
早稲田大学里研共催シンポジウム記録「治療的ファミリーホーム」  
柏女霊峰氏と Tomlinson 氏対談記録「日本の家庭福祉の現状と困難事例対象の治療的支援センター像」  
里親支援専門相談員への講演記録(平田班共催)「里親支援と治療的ケア」  
児童相談センター 特別臨床セミナー講演会記録「治療的施設ケア:トラウマを背負う子どもとのかかわり」  
治療指導課スタッフとの座談会記録

児童相談センター特別臨床セミナー参加者の  
アンケート結果

Tomlinson 氏作成の講演資料（開原翻訳）

1. 「英国における里親のリクルート」
2. 「トラウマを背負った子どもたちと心を通わせるには」
3. 「エビデンス情報と成果にもとづいた里親ケアのモデル」

### 「T氏の講演等と懇談から得られたこと」

里親支援では日本より実績の長い英国が現在かかえる問題について知ることができたこと、また、正しい回答を求めるのではなく、語り合い考えることにより解決策を探すという視点で討議がすすめられ、日本の実態の理解を深めた上で必要な支援を検討したことは意義があった。特に参考となった点を以下に示す。

英国はもとよりどの国も、社会的養護の対象となる子どもは、重いトラウマを背負う困難事例と発達に問題のある子どもが多くなり、里親も施設職員も養育に疲弊し、志願者が減少しているため、その対策に苦慮している。

里親家庭が8割を占める英国では里親へのしめつけが厳しくなり、里親から悲鳴があがっており、治療的グループホームなどの施設ケアが見直されてきている。

T氏の体験に根ざした施設ケアの実践とケアラーを支える仕組みが語られ、よきリーダーシップとスーパーバイズ、職員のよきチームワークが重要で、子どもに再度の喪失感を体験させないためにも職員は辞めないで生き残ることの重要性が強調され、施設職員の共感を得た。

施設ケアも里親ケアも、まず子どもの視点で考えること。子どもはケアラーをどう思っているのか、子どもにとって専門里親かふつうの里親かかどのような意味があるか。専門里親の資格を云々する前に、どのような子どもの養育が得意か、非行の子どもか、障害の子どもか、トラウマを抱える子どもかという視点で考えることが強調された。

里親のリクルート、研修については、翻訳資料「里親リクルート」が示されたが、審議会に里親も参加すること、ソーシャルワーカーによる綿密な家庭訪問による里親調査

など日本でも類似のことは行われているが、里親が審議会に参加して里親認定を受けることなど内容の濃さに差が感じられた。

日本は献身的働きをする（extraordinary）里親の力で里親制度が支えられているが、ふつうの里親が継続できる支援体制が求められる。

社会的養護の子どもの80～90%は実親のもとに戻るため、実親指導が重要であるが、困難親が多いので特別なスキルが必要であることと、実親は英国でも、子どもと交流しやすいということで里親より施設入所を希望している。

英国は施設内虐待をきっかけに新しい法令がつくられるなど、たえず法改正があることが問題で、子どもからの施設内虐待のウソの訴えを避けるために夜勤職員が2名になったり、労働基準法により、愛着関係を築くような勤務が出来ないことなど問題が多い。

英国では1989年の児童法以来、結果重視が強調され、制度論ではなくエビデンスを重視するようになった。子どもにどのような結果をもたらしたかが重視されるが、日本は依然として制度論優先で、実態をみしていないことが問題とされた。（専門里親制度など）

英国の大型の里親支援企業のキーアセットなど、ビジネスを世界展開しているようなビジネス優先の企業の参入を日本の行政が受け入れているが、日本の行政は日本の文化と実績に根ざした支援モデルを育てるより、外国企業の導入の方が財政的に有利と考えているのかが危惧されることが指摘された。

### D. E. 考察と結論

T氏招聘による活動から、これまで、社会的養護の問題で日本の識者たちによって論じられている視点とは異なる新たな視点を得られたことは、日本のこれからの社会的養護の改革を考える上に参考となった。

英国で最近重視されているエビデンスに根ざした論議、子どもの視点にたつ社会的養護が論じられているのに対して、日本は制度優先という福祉体系が依然として強く、新設された里親支援専門相談員の活動も制度の制約に縛られて十分活躍が出来ないことが危惧されている。

また、大規模施設の縮小とグループホームや里親家庭を増やすという日本の社会的養護の改革については、英国では1960年代から政策的決断による施設廃止が急激に実現しているが、民間経営の施設が多い日本ではどうすすめるかが課題である。

東京都が2002年にそれまで30年の実績のあった養育家庭センターを廃止し、児童相談所に吸収した経緯は、激烈といえる数少ない改革であったが、その結果のエビデンスが示されず、現在の里親支援のレベル低下に結びつく結果となっている。研究協力者の兼井京子氏による論文に廃止にいたる経緯が示されているが、9か所の児童養護施設に配置された2人の常勤ソーシャルワーカーによる養育家庭センターの充実した里親支援の実績は、現在の里親支援の担当者のモデルとなっているが、廃止により里親支援を児童相談所に集中させようとしたが、養育家庭センターの実績を超えることができなかった事実を、本プロジェクトでは困難事例を養育する里親家庭への民間の支援センターモデルを考える上の参考としたい。

日本では、これまで里親支援に関しては米国モデルの情報が多いが、T氏招聘による本研究では、T氏から英国、米国、オーストラリアの情報を得ながら日本社会独自の支援のあり方を模索している。

多様な里親支援の情報が氾濫する中で、本研究ではあくまで、困難な事例を養育する里親家庭への治療的支援ができる仕組みを研究するものであり、いわゆる里親サロンなどに出入りも出来ず、必死の養育で疲弊している里親の支援を考えるものである。困難な問題が少ない、育てやすい子どもの養育(そうした対象児は少なくなると考えられるが)を前提の里親支援については他の取り組みにゆだねたい。

今回のT氏招聘による、治療的施設ケアと里親ケアの討議では、具体的な里親による里子との愛着を形成する遊びについて検討することが出来なかった。そのため、英国のホスピタル・プレイ・スペシャリスト資格の日本への導入を実現させた研究協力者 松平氏に里親が実践可能な「セラプレイ」(治療的遊び)の紹介を依頼し、原稿を資料として添付した。年少児を養育する里親への具体的な養育支援として今後の課

題としてゆきたい。

## G. 研究発表

翻訳書作成による発表

招聘者 Patrick Tomlinson 氏らの原著を開原らにより監訳し、2013年12月福村出版より出版している。

### 原著

Susan Barton, Rudy Gonzalez and Patrick Tomlinson: "Therapeutic Residential Care for Children and Young People"

~An Attachment and Trauma-Informed Model for Practice~

Edited by Patrick Tomlinson

Jessica Kingsley Publishers

London, UK

First published in 2012 287p

### 翻訳書

スーザン・バートン、ルディ・ゴンザレス・パトリック・トムリンソン著

開原久代/下泉秀夫/小笠原彩/倉本アフジャ亜美/関戸真理恵 監訳

「虐待を受けた子どもの愛着とトラウマの治療的ケア」~施設養護・家庭養護の包括的支援実践モデル~

福村出版 東京都文京区

2013年12月20日 初版第1刷発行 342p

## 引用文献

兼井京子：東京都養育家庭制度の支援体制の変遷を通して里親支援を考える～平成14年度末養育家庭センター廃止から現在まで～、児童福祉研究 No.23 114-122p,2007